

	課題分析	授業改善策
一年	<p>国：自分の考えや思いを表現すること。</p> <p>算：数学的な思考力を働かせて問題を解くこと。</p>	<p>国：語彙を増やすために、授業で言葉の意味を教えたり、説明させたり、動作化させたり、言葉遊びをしたりする機会を増やす。日直のスピーチや、週末日記等で、話すことや書くことの力を伸ばす。</p> <p>算：ノートに自分の考えを整理して書く書き方を指導する。ペア学習を取り入れ、自分の考えを説明する機会を増やす。宿題で計算問題だけでなく、数学的思考を働かせる問題も取り組ませる。</p>
二年	<p>国：①文章を読み取る力をつけること。 ②話し言葉と書き言葉を正しく使って文章を書くこと。</p> <p>算：繰り返り上がりや繰り返り下がり計算を正確にすること。</p>	<p>国：①読書の時間を増やす。文章の叙述に基づいて考えることを繰り返し指導していく。 ②家庭学習を活用し、日記を書かせることで、文章の構成を理解させる。また、教師が手本を提示することで書くことが苦手な児童も意欲的に取り組めるようにする。お互いに共有し合い、よさを感じ、自分の表現方法にも取り入れていけるようにする。</p> <p>算：計算の知識や技能を定着させるために、プリントやフラッシュカードなどを活用し、繰り返し練習を行う。</p>
三年	<p>国：自分の考えを文章にして書くこと。</p> <p>理：実験結果から考察を行う場面において、事実と考察を区別すること。</p>	<p>国：課題に対して自分のレベルに合わせて選べるようなワークシートを工夫する。例えば、穴埋め式のワークシート、ある程度の型を示したワークシート、すべて自力で書くワークシート等を用意する。</p> <p>理：考察を各自で書く時間を十分に取り、そこで気付いたことや分かったことをグループや学級全体で共有する場を設置する。また、その話し合いが整理できるように板書やワークシートを工夫する。</p>
四年	<p>国：文章を書くことについての苦手意識を解消すること。</p> <p>社：主体的に問題を解決しようとしたり、学習したことを自分の生活に生かそうとしたりする態度を高めること。</p>	<p>国：授業の中で文章や考えを書く活動を意図的に増やし、書く力を身に付けさせる。必要に応じてワークシートを活用し、書くことが苦手な児童でも主体的に取り組むことができるようにする。</p> <p>社：学習問題や学習計画を丁寧に作り、主体的に問題解決が進められるように資料やタブレットを効果的に活用する。単元の終末には、社会的な課題に対して自分たちができることを具体的に考えさせ、それを工夫してまとめられるようにする。</p>

<p>五年</p>	<p>国：自分の考えをもつことや書くこと。</p> <p>社：資料を丁寧に読み取ることや、読み取った事実を基に自分の考えを導き出すこと。</p> <p>体：運動能力の差が大きく、「なぜできないのか。なぜうまくいかないのか。」というように自己を振り返ること。</p>	<p>国：短い時間でのグループ活動や話し合い活動を取り入れたり、話型を提示したりするなど、書くことへの抵抗を減らす。</p> <p>社：資料の読み取り方を指導し、学習の中で、資料に注目させていく。数値の変化や他の資料との差異などに着目し、導入で活用したり、ノートに貼る資料として提示したりしていく。また、適切な発問や指示を適宜行う。</p> <p>体：授業終わりに「できたこと」「教わったこと」「うまくできるようになったこと」など項目に分けて振り返る。そのために、友達と交流する場をつくるなど、授業形態を工夫する。</p>
<p>六年</p>	<p>国：自分の考えをもち、伝え合うこと。</p> <p>社：資料を読み取り、自分の生活との関わりを踏まえ、さらに考えを深めたり広げたりすること。</p> <p>体：コロナ禍に大きな影響を受け、体力・運動経験に差があること。</p>	<p>国：授業中に、自分の考えを書く時間や、ペアワーク・グループ活動などの話し合いの機会を意図的に増やす。</p> <p>社：数値の読み方や変化の見方、そこから何が考えられるのかなどの資料の読み取り方の指導を行う。また、実生活とどのような関わりがあるのかを考えさせる発問を行う。</p> <p>体：スモールステップの学習過程を大切にし、どの子にも「できる」を味わうことのできる学習を行う。そのために、各領域、場や用具を工夫する。</p>
<p>専科</p>	<p>算：分数のわり算などの場面で、帰納的思考が身に付いていないこと。</p> <p>理：イメージを予想し、実験結果から考察を考え言語化して表現できる力を身に付けること。</p> <p>音：コロナ禍でマスク生活が長かったこともあり、気持ちを開放して歌声を合わせたり、表現したりすることに抵抗を感じる児童がいること。</p> <p>図：絵を描くことに難しさを感じ、苦手意識をもっている児童が多いこと。特に、写実的な表現がよいものだという意識を強くもっていること。</p> <p>外：外国語を使ってコミュニケーションを楽しんだり、自己表現をしたりすることに難しさを感じる児童が多いこと。</p>	<p>算：帰納的思考と演繹的思考を使って考えられるように指導する。具体的にはグループ交流後の全体交流において、黒板に出させたホワイトボードを活用し共通して言えること、つなげて分かることは何か説明する力を育てる。</p> <p>理：ノートを活用して、自分の考えをまとめることと他者の意見をまとめ、比較することができるような授業の流れをつくる。</p> <p>音：発達段階に応じて学習の場の工夫をし、児童の特性に応じた教材を準備するなど、様々なアプローチをする中で表現する楽しさを体感させていく。</p> <p>図：モダンテクニックなど様々な表現方法を体験させ、自分の好きな表現を見つける指導を行う。写実的に描けなくても楽しめる平面題材を取り入れる。</p> <p>外：スモールステップで学習計画を立て、インプットとアウトプットの場を増やし、積極的にコミュニケーションを楽しむ機会を作る。</p>